

派遣者番号	R4K02	氏名	木下 明子
研究主題 —副主題—	自分も人も大切にできる「心」を育む道徳科授業 —ルーブリック評価を生かした授業改善—		
派遣先大学	創価大学 教職大学院	指導担当者	石丸 憲一
所属	東大和市立第九小学校	所属長	小須田 哲史

キーワード：道徳科授業、授業改善、ICEモデル、ルーブリック

要旨：教育現場では、児童の学びに対する評価に関して授業者の授業改善につながる指導と評価の一体化がなされていない現状がある。そこで、授業における児童の評価を再考し、活性化することで「考え・議論する」道徳授業にしていくことが必要だと考えた。石丸（2018）では、1時間の道徳の授業の中で行われている様々な活動を<わかる><つながる><生かす>という学びのレベルに分類し、ルーブリック化し、道徳科でのルーブリックの活用を実現している。自身が行う検証授業においてもルーブリックを作成し、実践をすることとした。検証授業の結果から、教師の働きかけによって子供がどう変容していくのかをルーブリックにより見極めることで、指導過程や発問の効果を問い、授業改善のためのフィードバックにもつながることが分かった。

## 1 研究の背景（目的）・主題設定の理由等

文部科学省（2021）が、初めて行った「道徳教育実施状況調査」では、「これまで以上に道徳教育に対する指導の意識の高まりを感じることができている。」という結果が示された。一方、教育現場では、児童の学びに対する評価に関して授業者の授業改善につながる指導と評価の一体化がなされていない現状がある。そこで、発達段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子供が自分事として捉えられるようにし、授業における児童の評価を再考し、活性化することで「考え・議論する」道徳授業にしていくことが必要だと考えた。

本研究では、このような現状・課題を踏まえ、道徳科での評価の明確化を図るために、評価の観点を明示したルーブリックによる授業評価法の開発と有効性検証（質的アプローチ）を取り入れることにより、「考え・議論する」道徳科の評価の在り方について明らかにする。さらに、評価の在り方を検討し、児童の実態に応じたルーブリック評価を行うことが道徳科での授業改善につながることの検証も併せて行うこととした。

## 2 研究の内容・研究の方法

### (1) 基礎研究

#### ①定義付け

##### 【道徳科の目標】

第1章総則の第1の2の（2）に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

文部科学省（2017）は、「道徳的価値とは、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動するために必要とされるものであり、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となるものである。学校教育においては、これらのうち発達の段階を考慮して、子供が道徳的価値観を形成する上で必要なものを内容項目として取り上げている。子供が将来様々な問題場面に出合った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うためには、社会で共有されている道徳的価値の意義や大切さの理解が必要となる。」と示している。道徳的価値については、以下の3点が挙げられている。

#### ②ICEモデルと道徳科

石丸（2018）は、「道徳科において、子供たちの「考え」の深さをより質的に評価するための評価システム構築のために、ICEモデルという学習理論が有効であると考えている。」と示している。道徳科では、ICE

モデルの考え方を取り入れることに、大きなメリットを見出し、道徳科の学習過程をより質的に表し、よりイメージしやすくすることを考えて、〈わかる〉〈つなが〉〈生かす〉という三つの動詞で構成するようにしている。

#### (ア) 価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切な内容項目を理解させることである。

#### (イ) 人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなどを理解させることである。

#### (ウ) 他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であることを前提として理解させることである。

### ③〈わかる〉〈つなが〉〈生かす〉を生かしたルーブリック作成

石丸（2018）は、1時間の道徳の授業の中で行われている様々な活動を〈わかる〉〈つなが〉〈生かす〉という学びのレベルに分類し、ルーブリック化し、道徳科でのルーブリックの活用を実現している。自身が行う検証授業においても、ルーブリックを作成し、実践をすることとした。

表1 〈わかる〉〈つなが〉〈生かす〉を生かしたルーブリック作成

わかる	つなが	生かす
・教材（資料）に含まれる価値の存在に気付いたり、考えたりする。 ・道徳的価値の内容がわかり、大切なことだと思う。	・道徳的価値と自分の関係を捉える。 ・道徳的価値同士の関係を捉える。 ・自分と友達との関係を捉える。	・〈わかる〉〈つなが〉をふまえた行動をしようとする。 ・生活をよりよいものにするよう努力したり工夫したりする。

### (2) 検証授業

都内公立小学校の第6学年2学級で、ルーブリックあり・ルーブリックなしの各4回の検証授業（計8回）を実施した。内容項目については、児童の実態を把握するために事前アンケートを行い、その結果から課題となっている項目について内容項目を設定した。また、〈わかる〉〈つなが〉〈生かす〉を生かしたルーブリック作成を行った。

## 3 研究の結果・分析

ここでは、第6学年の授業分析（内容項目「B 友情、信頼」、教材名「ロレンゾの友達（光村図書）」の〈生かす〉の部分について掲載する。

表2 「ロレンゾの友達」のルーブリック

評価の観点	わかる	つなが	生かす
真の友情について考える。	・友情や信頼がどのような形で表れているかわかる。	・自分の生活を振り返り、自分の「友情」を認識している。	・友達との間にある友情や信頼を大切に思い、行動している。

表3 1組（ルーブリックあり）児童4名の検証授業後の振り返り

(児童A)
・本当の友達とは、だめなことは「だめ」ということだということを考えました。これからは、 <u>友達のことも信用することも大切にしていきたいと感じました。</u>
(児童B)
・今日の授業を通して、改めて <u>友達を大切にしよう</u> と思いました。これからの人生に生かしていきたいです。
(児童C)
・グループの話合いでは、意見を深めることができました。そして私は、 <u>これまで友達をあまり信じられていなかったな</u> と思います。これからは、 <u>自分が出した意見のように相手を傷つけないように相手の気持ちをよく考えて生活していきたいです。</u>
(児童D)
・今日の授業を通して、たくさん大切なことを学びました。私は <u>これからの友達関係で、友達に正直に言うことが大切だ</u> と思いました。それを意識して生活していきたいです。

表4 2組（ルーブリックなし）児童4名の検証授業後の振り返り

(児童A)
・私は、ニコライのような勇氣はないけれど少しずつ言えないことを言えるようになって本当の友達になりたいと思いました。また、 <u>言ってもいいことと悪いことの区別をつけたい</u> と思います。
(児童B)
・今日の授業を通して友達は、大事なんだなあと改めて考えました。また、友達と話すときは、 <u>相手の気持ちを考えて尊重し合うことを大切にしていきたい</u> と思います。
(児童C)
・本当の友情についてよく考えることができました。 <u>互いに信じ合う「心」を大切に生活していきたい</u> と思います。
(児童D)
・真の友情とは、今まであまり深く考えていなかったけれど今日の授業を通して、 <u>真の友情とは互いの気持ちを素直に伝えることだと感じ、今まではあまり素直に伝えられなかった</u> ので、これからは本当の友情を結んでいきたい。

〈わかる〉〈つなぐ〉〈生かす〉を生かしたルーブリックの〈生かす〉の部分については、ルーブリックを「友達との間にある友情や信頼を大切に思い、行動している。」と設定した。児童の振り返りシートの記述から、価値理解・人間理解・他者理解に関わる記述がどのように表出しているのか分析する。

表3の児童4名の授業後の振り返りシートを分析すると、児童4名ともに価値理解が深まっているのが分かる。キーワードとして、「信用（信じる）」、「相手の気持ちをよく考えた行動」、「正直に言うこと」を挙げることができ、これらを生活の中で意識しながら生かして実践していくことで、真の友情を深めようとするのが表れている振り返り記述となったと言える。

表4の児童4名の授業後の振り返りシートを分析すると、児童Aは、「言ってもいいことと悪いことの区別をつけたい。（人間理解）」、児童B・Cは、「相手の気持ちを考えて尊重し合うことを大切にしていきたい。互いに信じ合う「心」を大切に生活していきたい。（他者理解）」、児童Dは、「真の友情とは互いの気持ちを素直に伝えることだと感じ、今まではあまり素直に伝えられなかった

ので、これからは本当の友情を結んでいきたい。（価値理解）」の記述であると見ることができる。記述からのみではこの単元の道徳的価値である「友情・信頼」の価値理解につながるような実践につながったと言いつつ切れないが、これからの自分の生き方や友達から学んだことが書かれている表現が多く、全体的に人間理解につながる内容が多く見られたと考

えられる。

#### 4 研究の考察

検証授業全体を通して、〈わかる〉〈つなぐ〉〈生かす〉を生かしたルーブリックによる4回の検証授業を実践した。〈わかる〉の部分では、教師自身が道徳的価値を位置付け、児童をいかに本時での道徳的価値に近づけることができるかが重要である。〈つなぐ〉の部分では、児童が道徳的価値を自分事として捉え多面的・多角的に捉えられるかがポイントであるということが分かった。また、この部分では問題追究のための話し合い活動として、ペア・全体での交流の場を設定することで多様な考えに触れながら自己を見つめていくことで自分事として捉えさせることが大切であると感じた。〈生かす〉の部分での振り返りの記述では、道徳的価値の理解を深めるだけでなく、学習したことをいかに生活に生かしていく態度を養う道徳授業実践が大切であると感じた。まさに、教師による授業改善が今後も求められている。

以上のことにより、教師の働きかけによって子供がどう変容していくのかをルーブリックにより見極めることで、指導過程や発問の効果を問い、授業改善のためのフィードバックにもつながることが分かった。

#### 5 今後の展望

まずは、授業者自身が教材の道徳的価値をよく理解した上でルーブリック作成を行うことが必要である。さらに、ルーブリックを作成する際に何を教材の本質とするかが重要である。これらを踏まえて今後もよりよいルーブリックの作成とそれを生かした実践について他学年で多くの教材を対象に深めていく。